



東京学芸大学リポジトリ

Tokyo Gakugei University Repository

富士ワークキャンプの検証と分析

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-04-18 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 藤木, 正史, 川上, 佑美, 大橋, 典子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2309/00180056

富士ワークキャンプの検証と分析

Fuji Work Camp Verification and Analysis

国際教養委員会 藤木 正史
川上 佑美
大橋 典子

1章 富士ワークキャンプの目的と推移 —2019年度・2021年度の富士ワークキャンプ—

本校1年生で実施する国内ワークキャンプIは、2011年度に実施先を栃木県芳賀郡茂木町から山梨県の富士山麓に変更した。また、2019年度（13回生）にそれまでのプログラムとマイナーチェンジを行い、生徒のリサーチクエストに基づいたフィールドリサーチを軸とするワークキャンプに変更した。2019年度の成果をふまえて国際教養委員会では、2020年度以降の国際ワークキャンプIについて、二つの方針を定めた。一つは、国際教養の3分野（人間理解・国際理解・理数探究）にそったフィールドリサーチを軸としたワークキャンプの実施（方針1）、もう一つは、富士山周辺地域の多様なステークホルダーとの協力関係の構築（方針2）、である。方針2では特に、富士山周辺における自然調査プログラムの開発を目指した¹。

2020年度、コロナ禍により2020年11月に実施予定だった14回生の富士ワークキャンプは延期となり、2021年10月の実施となった。2021年度（14回生）のワークキャンプは、方針2に即してホールアース自然学校（静岡県富士宮市）と協働で開発した富士山「まなびの森」における理数探究プログラムを初めて実施した。なお、富士山「まなびの森」は、住友林業株式会社が管理する森であり、2021年4月1日に、本校と住友林業株式会社、NPO法人ホールアース研究所（ホールアース自然学校）の3者で「富士山「まなびの森」での森林（もり）づくり体験活動に関する覚書」を締結している。ホールアース自然学校との提携により、事前指導においては「調査探究について」「科学的なものの見方」など、探究活動の基礎が充実し、事後学習においても「仮説・調査・結果・考察のふりかえり」を丁寧に実施することができた²。

2022年度は、5月に15回生が実施（本来は、2021年度実施予定）、また16回生が11月に実施した。第2章では、3ヵ年度（2019年度・2021年度・2022年度）の実施をふまえた富士ワークキャンプの検証と分析を行う。

2章 2022年度の富士ワークキャンプ

1節 15回生（2年次）富士ワークキャンプ

1. 目標・目的

- ①自然の中で様々な体験学習を通して、「思索する力」「表現をする力」「コミュニケーション力」を育む。
- ②集団生活やグループ行動を通じて、生徒間および教師との間の良好なコミュニケーションづくりを図る。
- ③富士山周辺の自然を、五感を使って体験し、持続可能な社会はいかにあるべきかを考える機会とする。

¹ 「フィールドリサーチを軸とした富士ワークキャンプ」『国際中等教育研究』第13号, 2020

² 「富士山「まなびの森」の探究活動について 一初年度の実戦報告—」『国際中等教育研究』第15号, 2022

2. 実際の行程と行った活動 2022年5月11日(水)～13日(金)

1日目	午前	移動 ・サンきよすみ(昼食)	※高速道路渋滞のため予定からかなり遅れる
	午後	・まなびの森 ・富士研修所	・フィールド調査 ・調査まとめ
2日目	午前	・富士研修所	・チームビルディング
	午後	・コース別フィールドリサーチ① 人間理解 世界遺産センター／富士山の銘水(株) 国際理解 富士急行／新倉山浅間神社 理数探究 忍野八海／富士科学研究所 ・富士研修所	・見学、体験、講話 ・学年レク
3日目	午前	・コース別フィールドリサーチ② 人間理解 忍野八海／ふじさんミュージアム 国際理解 世界遺産センター／忍野八海 理数探究 世界遺産センター／富士山の銘水(株)	・見学、体験、講話
	午後	・富士研修所(昼食) ・談合坂SA	

3. 生徒アンケートの分析(生徒のふりかえり)

(1) 富士山まなびの森フィールドワーク(初日)

<p>「充実度はどうでしたか？」 (1～6、6が高い) 平均：4.75</p>	<p>生徒のコメント</p> <p>まなびの森ではリサーチクエスチョンとは何という状況で学校で準備をしていたので、学びの森に実際に行くまではかなり曖昧な準備になってしまった。まなびの森では思っていたより痕跡が見つからず、写真に撮るので精一杯なところがあったので、もともとチームで誰が何をするのか役割分担をしておくともスムーズに調べられると思う。</p>
---	--

事前学習を充実させ、先輩である14回生からの発表を聞いていたことや学校内で調査を体験していたことなどが当日の学びに生かされていたようである。まなびの森を初日に設定し、初日に交通渋滞に巻き込まれ、調査時間が減ってしまったことが充実度が下がった原因だと考えられる。

(2) チームビルディング(2日目:AM)

<p>「充実度はどうでしたか？」 (1～6、6が高い) 平均：5.50</p>	<p>生徒のコメント</p> <p>クラスでまだまだあまり関わったことのなかった人などとも関われる機会でした。最初のウォーミングアップから3つの遊び、全てが楽しく、充実出来ました。たくさんの人とコミュニケーションをとりながら、どうすればより団結力を良くし、競技を上手くこなせるかも話すことができたとおもいます。よって、コミュニケーションは団結力を強化できることを改めて学びました。</p>
---	--

2年生になってからのチームビルディングではあったが、学年として団結力を高める良い機会になったようである。

(3) コース別フィールドリサーチ (2日目 PM・3日目 AM)

国際理解コース「充実度はどうでしたか？」 (1~6, 6が高い)		
①富士急行	平均：4.94	生徒のコメント 富士急行は国際的な目標(SDGs など)とかにも参加してすごいと思った。特に、環境のための努力がすごいと思った。そしてそこまでに関係ない問題にも色々手伝っていいと思った。ただ富士山の文化や魅力を知るだけではなく、それを自国/他国に伝えるのが大切だと思った。
②新倉山浅間公園	平均：4.87	
③世界遺産センター	平均：5.07	
④忍野八海	平均：4.84	
人間理解コース「充実度はどうでしたか？」 (1~6, 6が高い)		
①世界遺産センター	平均：4.68	生徒のコメント 忍野八海は正直、調べてしまえばだいたいのが分かるのではないかなと思っていましたが、実際に見ないとわからないその周辺の雰囲気、距離感、透明感、どこに鯉が集まるか、どれ程鯉がいるか、鯉はどの色が多いのか、などたくさんのが具体的に理解することができた。
②富士山の銘水 (株)	平均：4.21	
③忍野八海	平均：4.52	
④ふじさんミュージアム	平均：4.94	
理数探究コース「充実度はどうでしたか？」 (1~6, 6が高い)		
①忍野八海	平均：5.10	生徒のコメント 富士山の噴火の歴史やこれからどのように対策していくのかを聞きマグマの動きなどで噴火を予測できることまた、その予測から富士山の近くの住民避難を円滑に行うという今考えられている理想の流れもわかった。
②富士山科学研究所	平均：4.85	
③世界遺産センター	平均：4.92	
④富士山の銘水 (株)	平均：5.03	

そのコースでしか行けないところが充実度が高いというわけではなく、事前学習で調べたこととの差があると充実したと感じたようである。

4. 評価とふりかえり

全体としての充実度は高いと言える。目標のうち、①②は達成できているのではないだろうか。

事前学習を充実させ、学校で学んだことを「実際に見て、実感する」ことができたほうが充実度が高いようである。しかし、事前に考えたりサーチクエスションがコロナ禍のために解決できないなどのこともあり、事前学習についても改善点はある。また、初日のまなびの森、2日目のチームビルディングなど行程については考える必要があると感じた。



2節 16回生（1年次）富士ワークキャンプ

1. 目標・目的

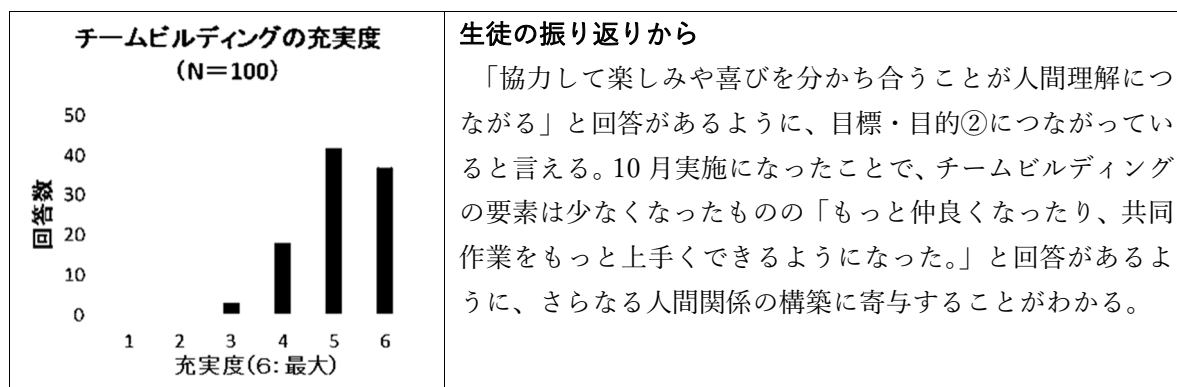
- ①自然の中で様々な体験学習を通して、「探究する力」「表現する力」「コミュニケーション力」を育む。
- ②集団活動やグループ行動を通じて、生徒間および教師との間の良好なコミュニケーションづくりを図る。
- ③富士山周辺の自然を、五感を使って体験し、持続可能な社会はいかにあるべきかを考える機会とする。

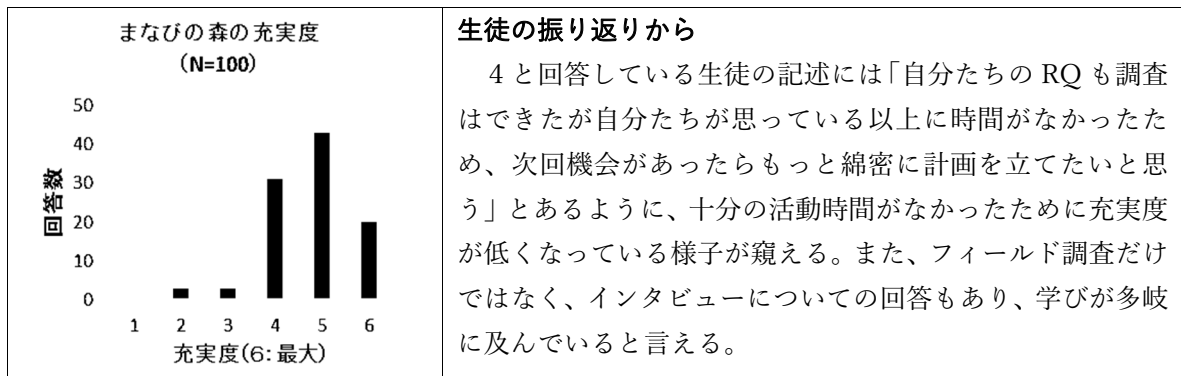
2. 実際の行程と行った活動

1日目	午前	・山梨県立富士湧水の里水族館 ・河口湖ふなつや（昼食）	・見学
	午後	・富士研修所	・チームビルディング
2日目	午前	・まなびの森（調査・昼食）	・フィールド調査
	午後	・コース別フィールドリサーチ① 人間理解 世界遺産センター／富士山レーダードーム館 国際理解 河口浅間神社／世界遺産センター 理数探究 忍野八海（総合地球環境学研究所） ・富士研修所	・見学、体験、講話 ・学年レク
3日目	午前	・コース別フィールドリサーチ② 人間理解 忍野八海（東圓寺）／ふじさんミュージアム 国際理解 富士山レーダードーム館／忍野八海（東圓寺） 理数探究 山梨県立リニア見学センター／世界遺産センター ・富士研修所（昼食）	・見学、体験、講話
	午後	・河口湖ふなつや ・談合坂 SA	・クーポンを使った買い物

3. 生徒アンケートの分析【平均値】

(1) チームビルディング【5.13 N=100】



(2) まなびの森【4.74 N=100】**(3) コース別フィールドリサーチ****①世界遺産センター【5.21 N=97】**

「自分だったら～と考えながら、江戸時代の人たちの考え方を理解していけて、とても楽しかった。(人間理解、5 と回答)」と回答があるように、考え方というソフト面での学びもあったと言える。

②富士山レーダードーム館【5.43 N=65】

「今の日本があるのはレーダードームを 9000 人もの人々が命懸けでつくってくれたからだと感じた(人間理解、6 と回答)」と回答があるように、人間理解の側面を歴史的に捉えることができていたと言える。

③河口浅間神社【4.79 N=34】

「海外での時間が長く日本の伝統的なもの(神社やお寺など)の空気感が聞いたことはあってもいまいち分からなかったからすごく印象的だった。(国際理解、5 と回答)」と回答があるように、原理に行くからこそできる学びを得たと言える。

④忍野八海(総合地球環境学研究所)【4.78 N=9】

忍野八海では、一番、理数探究のテーマの「科学技術は私たちの社会にどのように活用されているか」ということについて考えることができたと思います。「同位体によって、その水がどこから来るのか、どのくらいの年月を経ているのか分かれば、その水の保護や、安全な水づくりに役立てることができるのではないかと思います。(理数探究、4 と回答)」と回答があるように、観光地となっている忍野八海を理数探究の視点で学べたことがわかる。また、「テーマを一番よく考えられた(同)」と回答があるように、テーマとの親和性が高かったと言える。

⑤忍野八海(東圓寺)【5.14 N=65】

「世界遺産と登録された頃に中国から始まり東南アジアから多くの観光客が来られました。原因の一つと思われるのが忍野八海に祀られている八大龍王が考えられています。このため、八大龍王が忍野八海に対して大切だと学びました。(国際理解、4 と回答)」と回答があるように、国際理解の視点で学びを得たと言える。

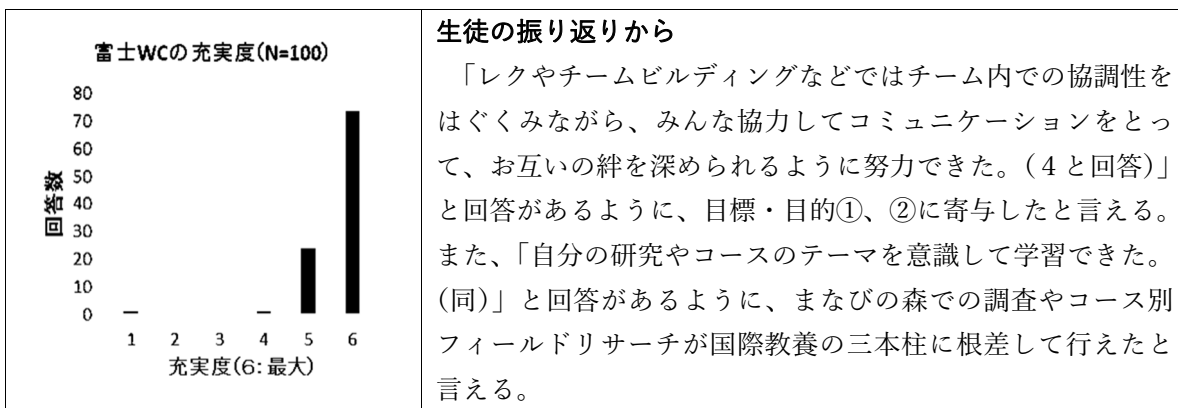
⑥山梨県立リニア見学センター【5.60 N=32】

「不可能を可能に変える力を持っているのが科学なんだなぁと思いました。(理数探究、5 と回答)」と回答があるように、リニアモーターカーを例に科学が社会に与える影響を考えられている。

⑦ふじさんミュージアム【5.29 N=31】

「ここではコース別で1番最初に行った場所のことを発展させて考えることができました。そのことで富士山や昔の人の考えがより深まり、考えることができました。(人間理解、5と回答)」と回答があるように、コース全体の学びをむすぶ役割となっていることが伺える。

(4) 富士WC全体【5.69 (N=100)】



4. 評価と振り返り

おおよそ充実度が高い結果となっている。一方で、充実してきたことにより総花的になっている傾向もあるため、選択と集中が必要である。チームビルディング、まなびの森、コース別フィールドリサーチの3点について、成果と課題を整理する。

チームビルディングについては、人間関係の構築に寄与していたものの、10月実施に変更したことに伴う見直しが必要である。まなびの森やコース別フィールドリサーチの時間確保の観点から、日々の学校の中でその要素を取り入れ、目的を達成することも視野に入れたい。

まなびの森については、2日目に変更したことで調査時間が確保できた。事前学習のさらなる充実に伴って、全日実施としたいと考えている。その場合、雨天時のプログラムが課題となる。全日実施とするためにも、雨天時のプログラム開発が急がれる。

コース別フィールドリサーチについては、行先と内容の見直しを図ったことで、国際教養の三本柱のつながりを生んだ。コース別にテーマとなる問いを設定したことで、生徒が問いに向けて主体的に取り組むことができた。コロナ禍によって行先や活動が制限されたこともあり、アフターコロナに向けた見直しは随時必要となる。

3章 これからの富士ワークキャンプ

2022年度の富士ワークキャンプに関する検証と分析をふまえて、今後の富士ワークキャンプについて、富士山「まなびの森」のプログラムとフィールドリサーチの位置付け、バランスについて委員会としての提案する。15回生、16回生ともに「まなびの森」プログラムの充実度に比較して、フィールドリサーチ先の意義づけが課題となった。また、フィールドリサーチ先でのリサーチクエストについて、行き先によっては十分に探究を深められないことも指摘されている。従って、「まなびの森」プログラムは「理数探究」プログラムとして自身で問いを立てるところから一通りの探

究を行い、フィールドリサーチは「人間理解」・「国際理解」プログラムとして整理し、分野別の問いを提示し、事前指導等の充実を図り、より深い探究を行う構成に再編することで本校1年生の「初めての探究」としての位置付けがより明確となると考える。なお、「まなびの森」プログラムの更なる充実のために、現在の半日プログラムから1日プログラムへと移行し中日の2日目に配置、初日と3日目に「人間理解」「国際理解」フィールドリサーチ①・②を配置するといったスケジュール再編も十分考えられる。

Fuji Work Camp Verification and Analysis

Abstract

The new Fuji Work Camp, which has been updated over three years, has achieved certain results, including the development of original programs in collaboration with companies and NPOs. At the same time, however, the field research program has accumulated the cooperation of many local stakeholders, but it is also true that a gap has emerged between the program and the "Manabi-no-Mori" program in terms of the degree of fulfillment. Based on the verification and analysis of the two Fuji Work Camps conducted this year, we propose the reorganization of the "Manabi-no-Mori" program as a science and mathematics exploration program and the field research program as a human understanding and international understanding program.